



Commemorating the 650th Memorial Observance for
Mimyō Daishi, Myōshin-ji's Second Abbot Special Exhibition

Myōshin-ji: Preserving the Temple Treasures



興祖微妙大師650年遠諱記念

妙心寺 —寺宝の継承—

2026年9月13日(日)—2027年1月22日(金)

〔前期〕9月13日(日)—11月14日(土) 〔後期〕11月16日(月)—1月22日(金)

※会期中、大幅な作品の展示替を行います。

休館日＝日曜日(但し、9月13日および12月13日は開館)、祝日、12月28日(月)—1月6日(水)

開館時間＝10時—16時 入館料＝無料

主催＝花園大学歴史博物館、臨濟宗妙心寺派 協力＝妙心寺古文化研究所

花園大学歴史博物館 [無聖館4階]



右上より
青磁牡丹唐草文香炉 中国・元時代(13～14世紀)〔後期〕
燭台〔銅三具足のうち〕 江戸時代 寛文4年(1664)〔前期〕
銅花瓶(部分) 桃山時代 慶長15年(1610)〔前期〕
朱漆鳳凰沈金大香台 川崎成甫作
江戸時代 宝暦13年(1763)〔後期〕

※いずれも妙心寺の所蔵





1



2



3



4

臨済宗妙心寺派の大本山である正法山妙心寺は、花園法皇(1297~1348)が花園離宮を禪寺に改めたことにはじまります。建武4年(1337)の開創であり、花園法皇が参禅していた大徳寺開山・宗峰妙超(大燈国師、1282~1337)の法嗣である関山慧玄(無相大師、1277~1360)が開山に迎えられました。以後、関山の法灯は「応燈関」(応=南浦紹明、燈=宗峰妙超、関=関山慧玄)一流の法脈として連綿と嗣がれています。

そして、妙心寺の長い歴史を関山禅とともに今日に伝えるのが同寺に蔵されている文化財です。関山慧玄・花園法皇ゆかりの品はもとより、祖師方の頂相・墨蹟や、妙心寺の歴史に関する史料、そして堂内を荘厳する美術工芸品など、これらの多彩な文化財に妙心寺の歴史が集約されています。

本展では妙心寺二世・授翁宗弼(興祖微妙大師、1296~1380)の650年遠諱を記念し、妙心寺に伝来する文化財を紹介します。とりわけ、これまでに展観されていない知られざる寺宝にもスポットを当てるとともに、妙心寺の寺宝がどのようにしてまもり伝えられてきたのか、同寺における寺宝の継承の歴史を紹介します。妙心寺の歴史のなかで蓄積された文化財を通して、花園の地に華開いた禅の美術と文化に触れていただく好機となれば幸いです。

興祖微妙大師650年遠諱記念

妙心寺

—寺宝の継承—

花園大学歴史博物館 (無聖館4階)

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1
tel. 075-811-5181(代) fax. 075-811-9664
https://www.hanazono.ac.jp



〈交通案内〉●京都駅より/JR嵯峨野線「円町駅」下車徒歩8分、市バス26・205「太子道」下車徒歩8分 ●京阪三条駅より/京都バス62・63・65・66「西ノ京馬代町」下車徒歩2分、地下鉄東西線「西大路御池駅」下車徒歩12分 ●阪急西院駅より/市バス26・27・特27・91・202・203・205「太子道」下車徒歩8分
※駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。



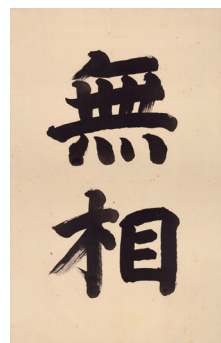
8

Commemorating the 650th Memorial Observance for
Mimyo Daishi, Myoshin-ji's Second Abbot Special Exhibition

Myōshin-ji:



5



6

宝蔵でまもり伝えられている
知られざる寺宝を紹介



7

Preserving the Temple Treasures

- 十六羅漢図 [16幅のうち] 江戸時代(19世紀)
【通期】(※前・後期で8幅ずつ入替え。掲載作品は後期展示。)
- 虚堂智愚像 寧山禅慧賛 狩野永岳筆
江戸時代 天保7年(1836) 【前期】
- 臨済義玄像 伝大慧宗杲賛 中国・元〜明時代(14~16世紀) 【後期】
- 関山慧玄像 雪江宗深賛 室町時代 文明2年(1470) 【後期】
- 忍草文様頭陀袋 関山慧玄所持 南北朝時代(14世紀) 【通期】
- 昭和天皇宸翰「無相」 昭和34年(1959) 【前期】
- 桜下双馬図 徳川綱吉筆 江戸時代(18世紀) 【後期】
- 布袋図 江戸時代(17~18世紀) 【前期】